

頬骨顔面孔および頬骨顔面孔に連絡する頬骨管の解剖学的検討： マイクロ CT 解析による Cadaver Study

川田 幸平

論文内容の要旨

頬骨顔面領域における骨膜剥離やインプラント体埋入などの外科処置あるいは外傷では、頬部の感覚異常が生ずることが報告されており、原因の1つとして三叉神経第2枝の枝である頬骨顔面神経の損傷が挙げられる。そこで本研究では、頬骨顔面神経の走行経路として頬骨顔面孔(ZFF)の分布とZFFに連絡する頬骨管の特徴を明らかにすることを目的とした。日本人男女の献体標本の頬骨を対象に、指標となる基準線(Jugale-Zygomaxillare line, 以下Ju-Zm line)を設け、マイクロCT解析によるZFFとそれに連絡する頬骨管の解剖学的評価・検討を行った。以下にその結果を示す。

1. ZFFの直径の平均は、男性で1.09 (SD 0.31) mm、女性で1.03 (SD 0.32) mmであった。
2. ZFFはJu-Zm lineよりも上方に位置し、ZFFの約8割(男性:79.3%、女性:77.5%)が頬骨体部、約2割(男性:20.7%、女性:22.5%)が前頭突起部に位置していた。
3. 頬骨体部内のZFFは、男性でやや後方部、女性で中央部に位置する傾向がみられた。
4. 頬骨体部内のZFFとJu-Zm line間の平均距離は、男性で12.36 (SD 1.52) mm、女性で11.48 (SD 1.61) mmであった。
5. ZFFと連絡する頬骨管の約9割(男性:93.2%、女性:85.7%)は頬骨眼窩孔から連絡する管(Type I)であった。加えて、前頭突起の後縁近くに位置するZFFには、頬骨側頭孔から連絡する管(Type II)が新たに確認された(男性:6.8%、女性:14.3%)。

論文審査の結果の要旨

本研究は、日本人献体標本の頬骨を対象に、指標となる基準線(Ju-Zm line)を設け、マイクロCT解析による頬骨顔面孔および頬骨顔面孔に連絡する頬骨管を解剖学的に検討したものである。その結果、日本人における頬骨顔面孔の分布とその性差が明らかとなり、頬骨顔面孔と頬骨側頭孔を連絡する頬骨管(Type II)も新たに確認された。これらは日本人の頬骨顔面領域における外科処置あるいは外傷で生ずる偶発症の防止に寄与する有用な知見を提供するものであり、歯学に寄与するところが大きく、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。

主査 佐伯 周子
副査 岩原 香織
副査 砂田 勝久

最終試験の結果の要旨

川田 幸平に対する最終試験は、主査 佐伯 周子 教授、副査 岩原 香織 教授、副査 砂田 勝久 教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。